

**大雨災害時における競走馬の避難を含めた
安全確保計画**

**石川県競馬事業局
金沢市農林水産局**

2025年12月

目 次

1 計画策定について	
(1) 策定の趣旨	1
(2) 目的	1
(3) 計画の適用範囲	1
2 計画の考え方	2
3 情報収集及び伝達	
(1) 情報収集	3
(2) 情報伝達	4
4 防災体制	
(1) 平時の備え（降雨前）	5
(2) 注意体制（浸水前）	6
(3) 警戒体制（浸水前）	7
(4) 非常体制（浸水後）	8
(5) 非常体制後の馬場浸水被害（浸水後）	8
(6) 浸水解消後	8
5 競走馬の避難	9
6 避難の確保を図るための施設の整備	10
別紙1 施設周辺の避難経路図	11
別紙2 競走馬の避難先リスト	13
別紙3 馬の運送事業者リスト	17

1 計画策定について

(1) 策定の趣旨

金沢競馬場は、令和7年8月6日からの大雨により、きゅう舎地区を含む敷地全体が長時間に亘り浸水するという未曾有の被害を受けた。幸いにも人的被害はなかったが、競走馬が30時間以上にわたりきゅう舎内で水に浸かる事態となり、競馬再開まで約1か月の期間を要した。

本災害は、金沢市ハザードマップ上の100年に1度というレベルをはるかに超える線状降水帯による集中豪雨によってもたらされたものであるが、今回の経験を踏まえ、近年の気候変動により激甚化・頻発化する大雨災害の発生に備えた競走馬の避難を含めた安全確保対策について競馬関係者と共有することにより、今後の大震災の被害を最小限とするため策定するものである。

なお、金沢競馬場を含む河北潟周辺の冠水被害対策等については、現在、国、県、市町、関係団体で構成する河北潟連絡協議会で議論がなされており、今年度中に「冠水・高潮対策プラン」として取りまとめこととなっている。今後当該プランがまとまり、本計画にも反映すべき点が生じた際は、適宜反映することとする。

(2) 目的

この計画は、金沢競馬場における大雨災害の発生時の競走馬等の安全確保を図ることを目的とする。

(3) 計画の適用範囲

この計画は、金沢競馬場に在きゅうしている全ての競走馬及びきゅう舎関係者等に適用するものとする。

2 計画の考え方

現在、全国で中央競馬・地方競馬を問わず、災害発生時の競走馬を集団避難させる計画を有する競馬場は存在しない。これは、競走馬の集団移動先の確保、移動手段、移動を誘導する人員の確保、誘導時の馬の転倒等のトラブル発生などの諸課題を解決することが難しく、移動に伴うリスクが小さくないと考えられているためである。

本計画においても、競走馬の競馬場外への集団避難を前提とした避難計画を策定することはオペレーションとして現実的でなく、移動リスクも無視できないことに鑑み、「避難の原則は場内避難（きゅう舎地区内）」としつつ、個々の調教師と馬主の協議の結果として、個別に場外避難をさせるニーズがある場合には競馬場としてその声にも応えよう、大雨災害発生時の対応手順を事前に関係者間で共有できる内容として整理した。

特に、競馬場の施設管理者である県は、場内避難の実効性を担保すべく、浸水対策として必要な施設整備・改修等の実施に努めるとともに、競走馬が避難する際に必要な避難先及び馬運車の情報提供を行うこととする。また、大雨災害の発生が予想される時には気象情報等の収集に努め、石川県馬主協会及び石川県調騎会に対し、収集した情報を速やかに提供するとともに、大雨災害発生時には、場内の浸水・排水対策を速やかに実施するものとする。

こうした考え方のもと、3. 以下に具体的な計画をまとめる。

（参考）競走馬の避難についての主な意見

（1）関係者（馬主協会・調騎会）の意見

＜調教師＞

- ・ 馬の避難先や馬運車の手配が難しく、事前避難は現実的ではない
- ・ 浸水時に馬を移動させることは、人、馬とともにケガや事故のリスクが大きい
- ・ 避難より浸水防止対策を強化できないか

＜馬主＞

- ・ 金沢競馬場内で600頭分の避難場所を確保することはスペース的に困難
- ・ 普段交流のある牧場などと提携し、避難先として確保しておくべきではないか

（2）有識者（JRA・地方競馬全国協会・経営評価委員会）の意見

＜JRA関係者＞

- ・ JRAでは馬の避難計画はない（※地方競馬にもない）
- ・ 集団避難という行動は現実的ではなく、避難の必要性や避難先は、馬主と調教師が個々の馬について判断し実行されるべき
- ・ 一時的な受け入れであれば、栗東トレーニングセンターは山を切り開いた広大な敷地があり可能と思われる

<地方競馬全国協会関係者>

- ・馬の避難を一律にルール化することは非現実的で、トラブルの原因になりかねない

<角居 JRA 元調教師（金沢競馬経営評価委員会委員）>

- ・珠洲ホースパークでも2、3日程度であれば、在厩馬を放牧してでも、金沢競馬の競走馬のために馬房の提供に協力したい

3 情報収集及び伝達

県災害対策本部連絡員等会議や、テレビ、インターネットを通じたメディアからの気象情報等を把握し、出来るだけ早く浸水被害への準備を行うことが重要である。

(1) 情報収集

収集する主な情報及び収集方法は、以下のとおりとする。

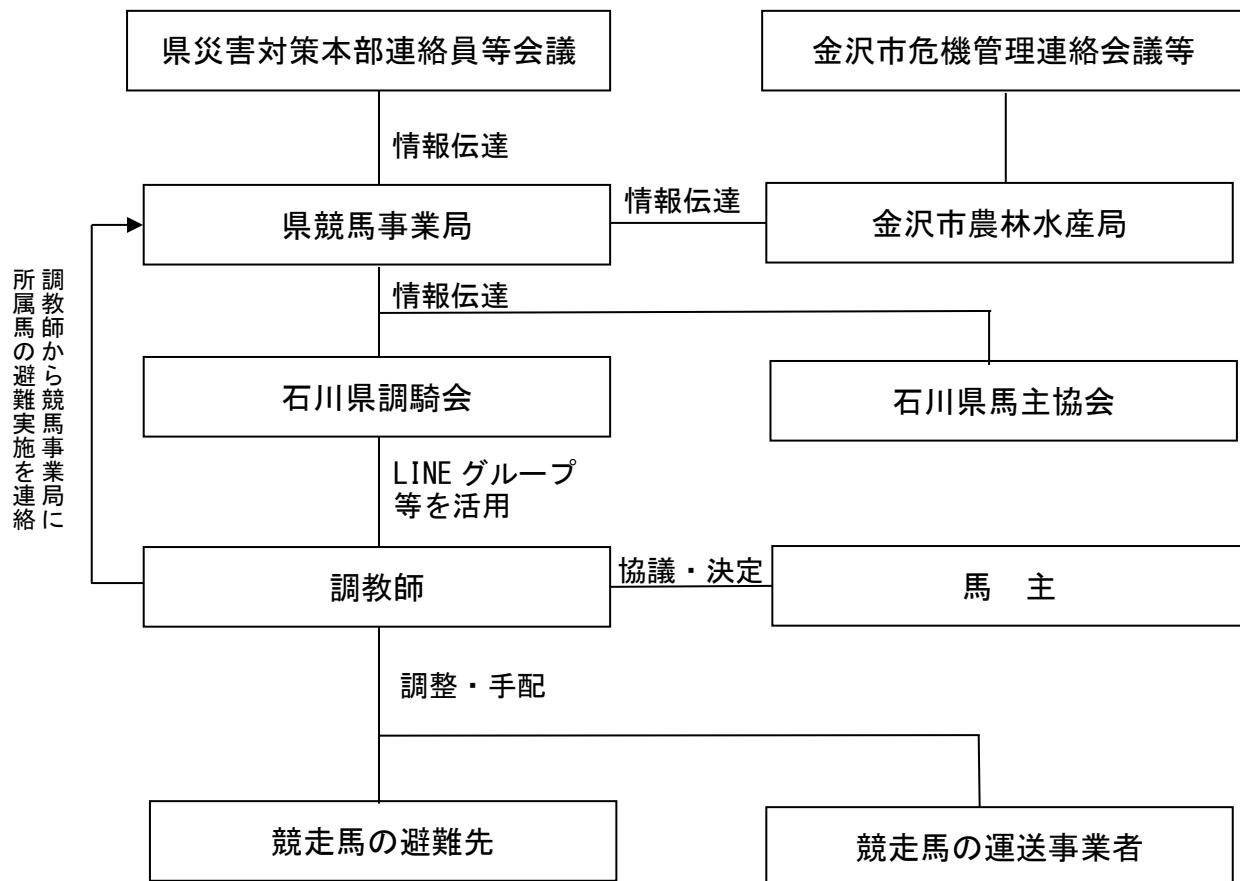
収集する情報	収集方法
気象情報	県災害対策本部連絡員等会議 テレビ、ラジオ インターネット 金沢地方気象台 (https://www.jma-net.go.jp/kanazawa/)
大雨・洪水予報、 水位到達情報、 水位情報	県土木部からのメール インターネット ・「川の防災情報」の森下川、河北潟（貯木場（内）、八田）の いずれかの水位到達情報発表状況 ・「川の防災情報」の森下川、河北潟（貯木場（内）、八田）の いずれかの水位観測所の水位
避難情報 (高齢者等避難、 避難指示、緊急 安全確保)	防災行政無線 テレビ、ラジオ、インターネット、SNS 金沢市の避難情報に係る緊急速報メール（金沢ぼうさいドットコム等）

※提供される情報に加えて、雨の降り方、金沢競馬場周辺の水路や道路の状況に危険な前兆が無いか等、場内から確認を行う。

(2) 情報伝達

- ① 県競馬事業局から、石川県馬主協会、石川県調騎会に気象情報等の情報提供（電話及びメールを活用）
- ② 石川県調騎会から各調教師へ情報を提供（LINE グループ等を活用）
- ③ 各調教師と馬主が競走馬の安全確保について対応を協議・決定
- ④ 各調教師は、自主避難先及び移動手段の目途がたった場合、競馬事業局に連絡の上、自主避難開始

○連絡系統図



4 防災体制

連絡体制及び防災体制は、以下のとおりとする。

(下表内に定める事項のほか、石川県競馬事業局と各調教師は協力して、災害対応に当たることとする。)

【防災体制確立の判断時期及び役割分担】

(1) 平時の備え（降雨前） レベル1

判断時期	活動内容	対応者
平時	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度以降のきゅう舎建替えに当たっては、宿舎の床上げ、止水板を設置・全きゅう舎に土のう袋を配架・排水ポンプの制御盤位置の嵩上げ・気象情報等の情報収集・気象情報等の調騎会、馬主協会への伝達	競馬事業局
平時	<p>災害時の備えとして以下を準備</p> <ul style="list-style-type: none">・競走馬の避難先リスト・馬の運送事業者リストを常備・資材の移動場所を確保・馬主と調教師とで、浸水時の対応について、事前に協議しておく・浸水被害に備え土のう袋、止水板をきゅう舎内に常備・浸水被害に備え、餌、寝藁などの資器材を、台、棚などの上部に設置するよう心掛ける	調教師

(2) 注意体制（浸水前）レベル2

判断時期	活動内容	対応者
<p>以下のいずれかに該当する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県災害対策本部連絡員等会議、金沢市危機管理連絡会議等からの情報提供 ・ 気象庁からの大雨注意報、洪水注意報の発表を受け、警戒が必要と思われる場合 ・ 森下川、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかの河川の氾濫注意情報の発表（森下大橋、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかの水位観測所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象情報等の収集 ・ 気象情報等の調騎会、馬主協会への伝達 ・ 場内排水ポンプの稼働準備 ・ 関係機関（北陸農政局・北陸地方整備局）への排水ポンプ車の出動要請を検討 	競馬事業局
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者自らが、大雨等に関する気象情報を収集 ・ 競馬事業局からの情報を調騎会から会員にLINEで周知（※新たに調教師LINEグループを設定） ・ 馬主の意向に基づき、避難先リストを参考に競走馬の避難先を確保、馬の運送事業者リストを参考に馬運車を手配 ・ 浸水に備えた土嚢、止水板等を使用する資器材の準備 ・ きゅう舎内の資材（寝ワラ、飼料など）の棚上部への移動等 	調教師

(3) 警戒体制（浸水前）レベル3

判断時期	活動内容	対応要員
以下のいずれかに該当する場合 ・気象庁の大雨警報、洪水警報の発表 ・森下川、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかの河川の氾濫警戒情報の発表（森下大橋、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかの水位観測所）	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報等の収集 ・調騎会、馬主協会への連絡 ・場内排水ポンプの稼働 ・関係機関（北陸農政局・北陸地方整備局）に排水ポンプ車の出動を要請する可能性があることを連絡 ・浸水しやすいきゅう舎に対し、未使用の交流きゅう舎や場内高台（本馬場内中央広場等）への競走馬の一時避難をあっせん ・競走馬の一時避難を望まない馬主への対応として、きゅう舎周りに設置する土のうを追加配付 	競馬事業局
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者自らが、大雨等に関する気象情報を収集 ・浸水に備えた土嚢、止水板の設置 ・きゅう舎内の資材（寝ワラ、飼料など）の棚上部への移動等 ・調教中止 ・場外避難 ・きゅう舎内避難の準備 ・優先避難馬の避難誘導 	調教師

(4) 非常体制（浸水後）レベル4

判断時期	活動内容	対応要員
以下のいずれかに該当する場合 ・競馬場内で顕著な浸水が確認され大規模な災害につながる恐れがある場合 ・森下川、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかで氾濫危険情報発表（森下大橋、河北潟（貯木場（内）、八田）のいずれかの水位観測所地点）	<ul style="list-style-type: none"> ・調騎会、馬主協会への連絡 ・場内排水ポンプの稼働 ・関係機関（北陸農政局・北陸地方整備局）に排水ポンプ車の出動を要請し、排水作業を実施 ・場内の被災状況の把握 ・金沢市駅西消防署に救援要請 	競馬事業局
	<ul style="list-style-type: none"> ・調教師・きゅう務員が、浸水が解消されるまで、競走馬やきゅう舎の安全を確保 ・馬主の意向に基づき競走馬の避難先（牧場等）・馬運車を手配 ・場内全体の競走馬の避難誘導（きゅう舎エリア内に一定の浸水があった段階で場外への避難を中止、きゅう舎内で待機） 	調教師

(5) 非常体制後の馬場浸水被害（浸水後）レベル5

判断時期	活動内容	対応要員
・浸水が馬場にも及んだ場合（浸水解消後、2週間は馬場が使用不能）	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間以上馬場使用不能の旨、調教師に伝達 	競馬事業局
	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水解消後の外厩施設への退避 	調教師

(6) 浸水解消後

判断時期	活動内容	対応要員
・浸水解消後	<ul style="list-style-type: none"> ・石灰の配付、馬道の消毒等作業 ・施設・設備の点検・修理等 	競馬事業局
	<ul style="list-style-type: none"> ・きゅう舎内外の清掃や片付けなど衛生管理 ・競走馬の健康状態の観察 	調教師

5 競走馬の避難

(1) 避難先及び移動手段

避難先及び避難先までの移動手段は、下表のとおりとし、場内避難を希望する場合は、空き馬房に限りがあることから、調教師は、あらかじめ競馬事業局に連絡の上、移動するものとする。

また、場外避難を行う場合も、避難経路上での混雑や事故等を避けるため、調教師は、あらかじめ競馬事業局に連絡の上、移動するものとする。

区分	場所	移動手段
場内避難	D、E、K きゅう舎 の空き馬房	徒歩
場外避難	調教師の手配した場所 (別紙2に参考例)	調教師の手配した車両 (別紙3に参考例)

(2) 避難の制限

以下の①②に該当する場合は、原則として、自らのきゅう舎内で待機するものとする。ただし、いずれの場合も、調教師と競馬事業局が協議のうえ、調教師の判断で避難を行うことは可能とする。

① 浸水が50cmを超えた場合

避難を開始する時点で、既に50cmを超える浸水が確認された場合、移動に危険が伴い、放馬等の事故を起こす可能性が高まるところから、自らのきゅう舎内で待機する。

② 悪天候及び夜間の場合

悪天候や夜間の場合、浸水が50以下の場合であっても、移動に危険と困難さを伴うことから、競走馬の避難及び調教等を控え、水が引くまで自らのきゅう舎内で待機する。

(3) 避難経路

避難先までの避難経路については、「別紙1 避難経路図」のとおりとする。

6 避難の確保を図るための施設の整備

競馬事業局及び調教師が、情報収集・伝達及び避難誘導の際に使用する施設及び資器材については、下表「避難確保資器材等一覧」に示すとおりである。
これらの資器材等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

○避難確保資器材等一覧

任務別	備蓄品	設置場所	設置者
情報収集・伝達	テレビ 1台	競馬事業局 管理棟	競馬事業局
	モバイル PC 13台		
	Wi-Fi ルーター 5台		
避難誘導	在きゅう馬一覧	きゅう舎	調教師
	きゅう務員名簿		
	馬房配置図		
	きゅう舎		
	宿舎借受者・居住者一覧表		
	誘導灯		
	懐中電灯		
	避難セット (非常用消耗品一式)		
きゅう舎内 安全確保	土のう		
	止水板		

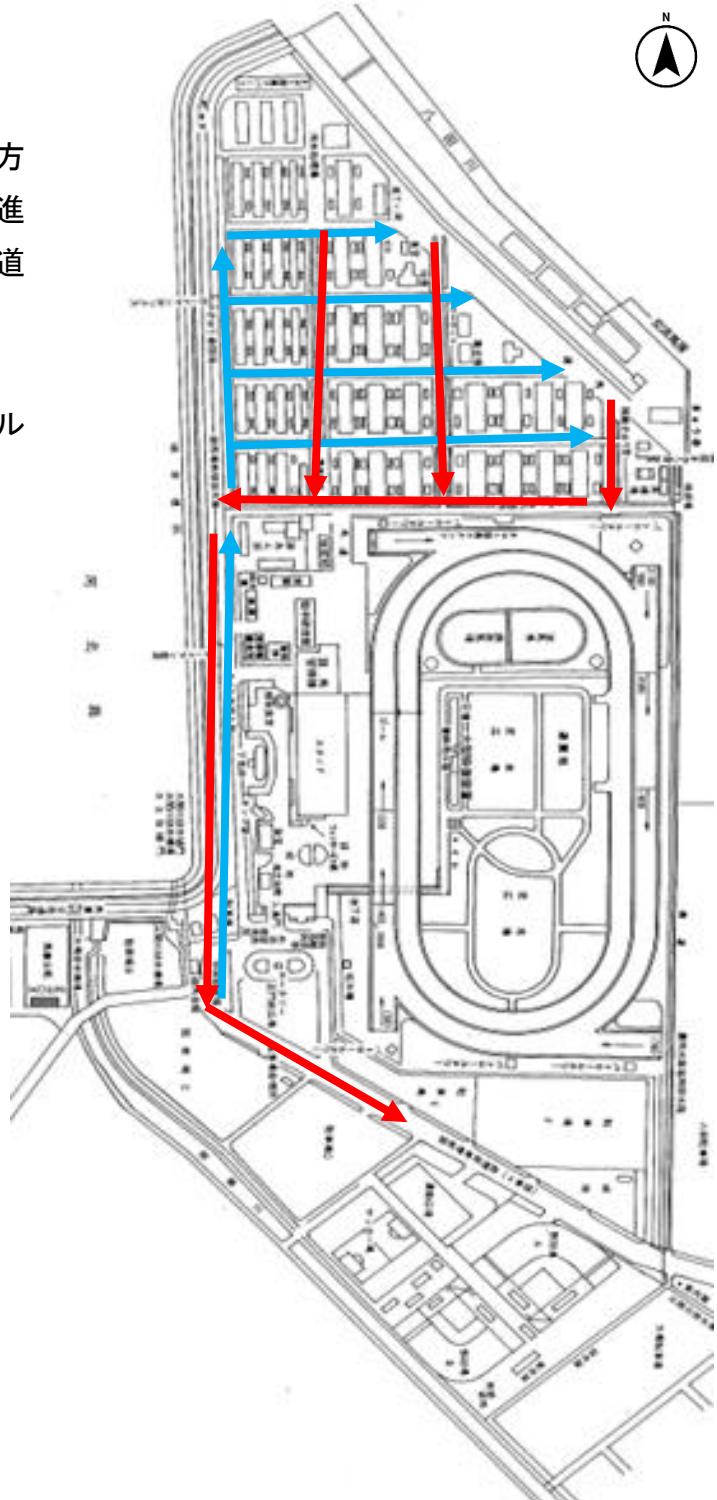
別紙1 施設周辺の避難経路図

浸水時の避難経路は、以下の場所とする。

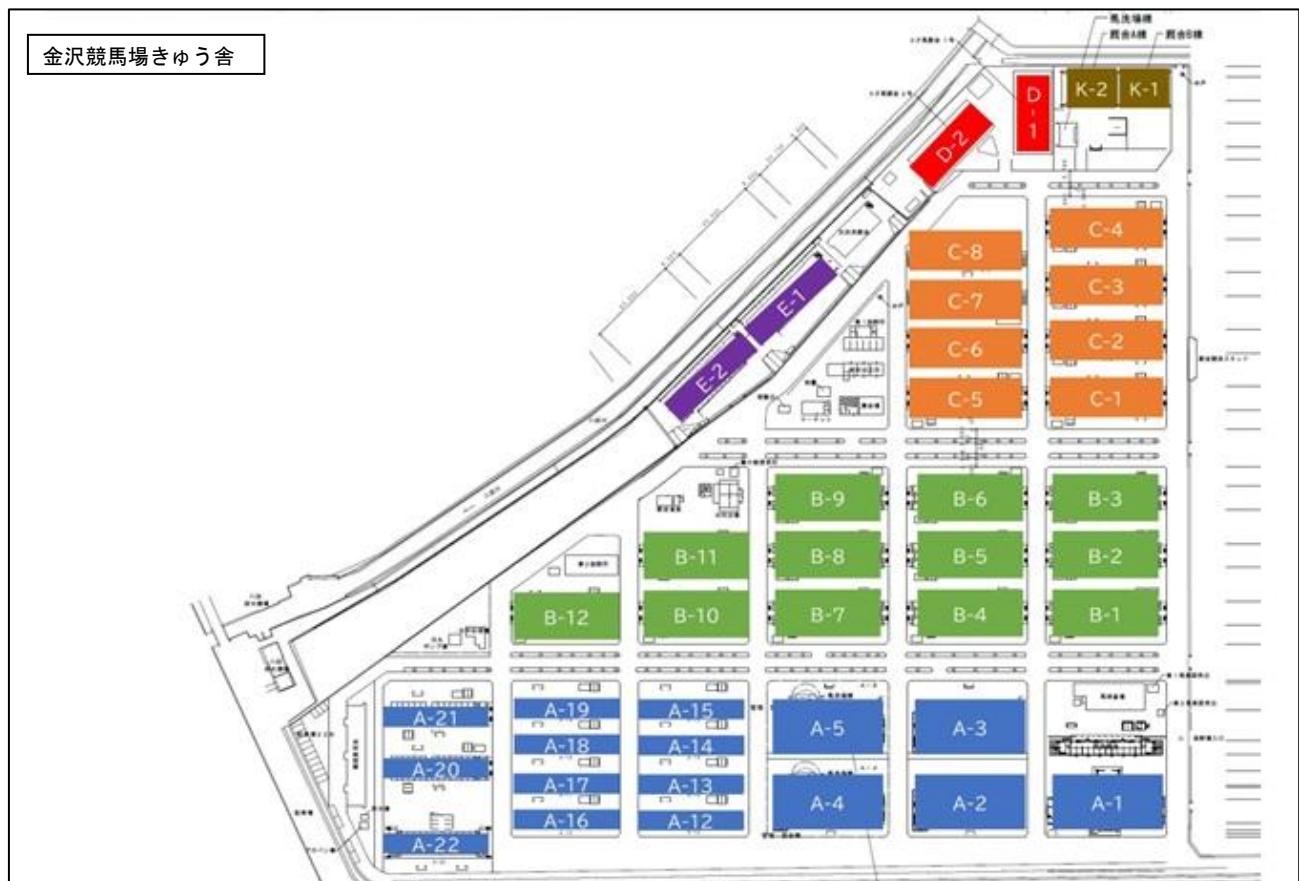
馬運車経路

- (1) きゅう舎地区への入場は南北方向の縦馬道（アスファルト）を進入状況に応じて東西方向の横馬道（砂地）を進入する
- (2) 退場は入場ルートとは異なるルートを使用する

入場経路 : 
退場経路 : 



【金沢競馬場きゅう舎地区】



別紙2 競走馬の避難先リスト

No	名称(代表者)
1	(株)小松トレーニングセンター
2	(株)愛知ステーブル小松分場
3	ヴィテン乗馬クラブ
4	金沢大学馬術部
5	ストローク乗馬クラブはなむけ
6	鈴々堂
7	松田牧場株式会社
8	珠洲ホースパーク
9	タニーズファーム
10	牧野ライディングソサエティ
11	立山町馬術協会利田馬場
12	富山乗馬クラブ
13	下村愛馬クラブ
14	スターライツステーブルス
15	上市ライディングパーク

No	名称(代表者)
16	うまのファーム
17	福井ホースパーク
18	ほんごう馬の里
19	乗馬クラブ パドウドウ
20	遊馬俱楽部
21	松原ステーブルス
22	山岡トレーニングセンター
23	チャンピオンヒルズ
24	ラクエドラゴンホースパーク
25	湖南馬事センター
26	グリーンウッド・トレーニング
27	信楽牧場株式会社
28	吉澤ステーブル WEST
29	うたむら牧場
30	朝宮ステーブル

No	名称(代表者)
31	ノーザンファーム信楽
32	キャニオンファーム土山
33	大野牧場
34	株式会社島上牧場
35	栗東ホース具楽部
36	ライジング・リハビリテーション
37	JRA 栗東トレーニングセンター
38	JRA 美浦トレーニングセンター
39	阿見トレーニングセンター (株式会社チエスナットファーム)
40	吉澤ステーブル EAST
41	ユタカファーム
42	松風馬事センター
43	ビッグレットファーム鉢田
44	ミッドウェイファーム

No	名称(代表者)
45	有限会社宇治田原優駿ステーブル
46	イクタトレーニングファーム
47	奥山高原乗馬クラブ
48	エミオンステーブル Awaji トレーニングセンター

別紙3 馬の運送事業者リスト

No	会社名
1	日本馬匹輸送自動車会社本社
2	日本馬匹輸送自動車会社美浦営業所
3	大江運送株式会社
4	株式会社サラブエキスプレス
5	ジェムホース
6	馬匹輸送 トラックサービス
7	鷹野運送株式会社
8	トカチ馬匹運送株式会社
9	株式会社野澤組
10	岩手県競走馬輸送協業組合
11	清里トランスポート株式会社
12	東海馬匹輸送株式会社
13	ジェイグ北関東
14	栗山牧場株式会社
15	株式会社ホース運輸
16	日本駿馬運送株式会社
17	株式会社金沢ギャロップ